

「WHO 統合国際診断面接第5版(CIDI 5.0)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証および活用のための体制整備に資する研究（5）」

分担研究者 木村 充（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター）

研究要旨

CIDI（統合国際診断面接）はWHOによって開発された精神疾患の包括的な診断を行う構造化面接である。精神疾患の国際疾病分類がICD-10からICD-11に変更されたことに伴い、CIDIは第5版(CIDI 5.0)に改訂された。我が国で疫学研究を行うにあたって、日本語版のCIDI-5を開発することは、海外との比較や国際共同研究を行う上で重要であると考えられる。この研究班では、CIDI-5の日本語版を作成しその妥当性、信頼性を確保することを目標としている。本分担研究では、アルコール依存症の患者群に日本語版CIDI-5を適用したフィールドテストを行うことにより、その妥当性を検証することを目的としている。今年度は、研究の進め方について他機関と協議し、実際の患者への調査を行うための準備を行った。

A. 研究目的

CIDI（WHO 統合国際診断面接）はWHOによって開発された精神疾患の包括的な診断を行う構造化面接である。精神疾患の国際疾病分類がICD-10からICD-11に変更されたことに伴い、CIDIは第5版(CIDI 5.0)に改訂された。我が国で疫学研究を行うにあたって、日本語版のCIDI-5を開発することは、海外との比較や国際共同研究を行う上で重要であると考えられる。この研究班では、CIDI-5の日本語版を作成しその妥当性、信頼性を確保することを目標としている。本分担研究では、アルコール依存症の患者群に日本語版CIDI-5を適用したフィールドテストを行うことにより、その妥当性を検証することを目的としている。

B. 研究方法

西らによって翻訳されたCIDI-5日本語版を用いて、アルコール使用障害（依存症）の患者に対して構造化面接を行い、その妥当性を検討する。対象は、久里浜医療センターにアルコール使用障害のため入院した患者20名とする。各被験者に対して、CIDI 5.0および精神科医あるいは臨床心理士によるDSMチェックリストを用いた面接を実施し、CIDI 5.0による診断の精度を確認する。一部の対象者にCIDI 5.0

を2週間から1ヶ月後に再試行し、評価者間信頼性を評価する。

C. 研究結果

本研究の実施について、久里浜医療センター倫理審査委員会にて承認を得た。本研究班のWeb入力システムを用いてCIDI-5.0を行う準備として、医師、心理士を含めた面接者がオンライン研修に参加し、トレーニングを行った。また、実際に被験者のリクルートを開始し、令和4年3月時点で1名の被験者に対しての面接を終了した。

D. 考察

実際に面接を遂行するためのトレーニングを行い、被験者を用いた面接の実施を開始することができた。まだ被験者の数は集まっていないが、入院中のアルコール依存症患者を対象に、令和4年度までに20名の面接の実施を行うことは可能と考えられる。

E. 結論

CIDI-5の開発は、今後の疫学研究等の基盤として重要なものであり、患者に対するテストを行うことでその妥当性を検討することは必須であると考えられる。今後、被験者を安定的に

集め、20名の面接を行いたいと考えている。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2 実用新案登録

なし

3. その他

なし